

大三島みんなのワイナリー TIMES

October
2017

発行元：大三島ワイナリーサポートクラブ
市民がともにおこすまちづくり事業費補助金の助成を受けています



初の葡萄収穫祭を9月24日に実施

ついに実った！ワイン色の「宝石」たち



手に持ってみたら、ズッシリ重くてびっくり！一粒試食してみたら甘さが凝縮されていて、生食でもこんなにおいしいんですね。醸造されたワインに再会できるのが、とても待ち遠しいです。
(広島県福山市在住・小林紀子さん)



農業界のアイデア商品 双方向型の「葡萄バサミ」が大活躍

収穫バサミの反対側にピンセットがついた「葡萄バサミ」が、「優秀すぎる！」と参加者の間で話題に。ハサミで葡萄の房を収穫した後、柄をくるととひっくり返せば、あつという間に不要な粒をつまみ出すピンセットに早変わり。これぞ、プロ農家さんのアイデアですね。

しまなみの大三島で、新名物となるワインをつくりたい……。たくさんの方の期待を一身に背負ってきた葡萄畑に、とうとう今年、紫色に輝く果実がたわわに実ってくれました。

昨年はイノシシの被害により、ワインの醸造ができる収量には届かず、悔し涙を流しました。しかし今年は、みなさんと取り組んだ「獣害回避作戦」が功を奏し、去る9月24日、無事に葡萄の収穫祭が開催できることに。

「粒が大きい！」「いよいよワインが現実になるのかあー」。参加者の喜びの声のもと、朝10時から収穫がスタート。甘い匂いにつられてやってきたハチに刺されないよう、2、3人でチームを組んで周囲に気を配りながら、葡萄にハサミを入れていきます。

ポイントは、「まだ色づいていない粒や小さい粒」を取り除きながら作業をすること。未成熟な粒がワインに入ると、酸味が強くなってしまいうのだそうです。

東京から参加した石井葉子さんは、「やっぱり『これが私たちの飲むワインになる』と思うと、普通の葡萄狩りとは意識がまるで違いますね。ずっと『おいしくなれ』と念じながら、作業していました(笑)」と、ワイン造りの工程に加わった喜びを語ってくれました。

収穫した葡萄の量は、約230キログラム。年末年始には200本以上の大三島産ワインが完成し、ついにお披露目となる予定です。

大三島とはこんなところ

瀬戸内海で5番目に大きな島で、人口は約6000人。島の中心部には日本総鎮守と呼ばれる大山神社があり、歴史ある「神の島」としても知られています。温暖な気候に恵まれ、みかんを中心とした農業が盛ん。本州や四国からは「瀬戸内しまなみ海道(西瀬戸自動車道)」で渡ることができ、絶景が臨めます。近年ではサイクリストの聖地としても注目されています。



大三島みんなのワイナリーとは

農家さんの高齢化で荒れてしまった「大三島」のミカン畑をワイナリーの葡萄畑としてよみがえらせるプロジェクトです。代表は、この島を愛し、島内に自らのミュージアムを構える建築家の伊東豊雄。「大三島みんなのワイナリー」は、島の農家さんやこの地に魅かれてやってきた移住者さん、活動を応援して下さる皆さまの協力により、運営されています。



おおしまみんなのワイナリー

株式会社 大三島みんなのワイナリーは、この事業に協賛しています

2017年下半期 ワイン畑レポート

醸造所で仕込んできました！



収穫祭の翌日。早速みなさんと獲った葡萄を仕込んできました。

大三島での醸造所はこれからつくる予定なので、今回は岡山県新見市にある「Domaine tetta」さんに醸造委託。果実の粒・皮・梗(果実の粒がついた細い枝)を含め、一房をあますことなく使う「全房仕込み」を行います。

先日酵母を添加し、タンクではワインがポコポコと可愛らしい音を立てて発酵を始めました。9月29日時点でのアルコール度数は、約2パーセント。これからの成長が楽しみです。

ペリーの甘い香りにスパイスの香りが混ざった可愛らしい印象のワインです。

冬には完成する予定なので、瀬戸内の風景と共にぜひご堪能ください。



葡萄栽培・醸造担当 川田佑輔

ワインを「もっと」楽しむバルの使い方

「大三島みんなの家」で夜に開催されている「大三島みんなのワインバル」では、みなさんに深くワインを楽しんでいただける工夫をたくさん用意しています。

たとえばイベント。毎月、満月のころに開催する「満月ナイト」では、揺らめくキャンドルの灯りと共にオーガニックワインが堪能できます。気候がよければ、テラス席で月を眺めながらグラスを傾けるのも一興です。また、ソムリエがテーマに沿って「個性派ワイン」をセレクトする「ワイン会」もおすすめ。7月の会では、都農ワインの「キャンベルアーリーロゼ」なども好評でした。予約をしていただければ、テーマや予算に合わせてワイン&料理もご提供できます。たとえば「大三島のイノシシを使った鍋にワインを合わせて」や「クリスマスなので特別なシャンパンを飲みたい」など、気軽にご相談ください。

また、昼間の時間帯は「大三島みんなの家」としても営業。イベント開催やカフェ、ランチなどでみなさんをお待ちしております。



島の料理人×ワイン

和食修行をされた茶梅旅館のまことさんによる「まことナイト〜和風創作料理とワインの夜」は6月に開催。お魚や豆腐を使い、この日のために特別に考えていただいた創作メニューとワインとのリアージュに舌鼓を打った夜でした。

【大三島みんなの家】
営業日 | カフェ 火～日曜 11:00～16:00
バル 金・土曜 18:00～22:00
電話 | 0897-72-9377
住所 | 愛媛県今治市大三島町宮浦 5562
メール | info2015@ohmishimawine.com
Facebook | https://www.facebook.com/ohmishimawine/
HP | http://ohmishimawine.com/



キャンドル×ワイン

9月に行った「満月バル」では、ナチュラルワインを中心に。フランスの南仏地方のオーガニックワインの「ポトロン・ミネ」が柔らかな酸味で、キャンドルのリラックスした雰囲気にとってもよく合っていました。

大三島よもやま話

港に舟があふれた 昭和初期の春祭り



まもる
渡辺 衛さん

大正8年、大三島の台(うてな)地区生まれ。かつては島内外で縫製工場を経営し、その手腕をふるった。御年98歳にして、島の生き字引。

その昔——、しまなみ海道が開通する前のこと。大三島の玄関口といえば「宮浦港」じゃった。いちばん賑わったのは、旧暦4月22日と23日。大山祇神社の春祭り(例大祭)のときじゃろう。近くの島からも何百もの舟が押し寄せ、岸に並びきれんほどよ。舟から降りた人たちは、舟から舟へ触先を渡りながら、陸に上がりよったわい。港からは大山祇神社までは、ずーっと一本の参道になっていて、片側には屋台が延々と軒を連ねておった。そして反対側は、海(現在の大三島町支所正面の道路は埋め立て地)。あまりにも人があふれかえって、海に落ちる者もおったわい(笑)わしが小学生のころは、お小遣いをもろうてお菓子を買えるのが楽しみで仕方なかった。ひょうたん型のガラス瓶に、ほんのり甘い水が入った「ニッケシユ」という飲み物が大好きでね。サツマイモでつくった飴をほおぼって、友だちとはしゃいでたことを今でも思い出すわい。



昭和10年代、20年代と思しき宮浦港。奥が御串山(みくしやま)。灯籠の左側は、現在は埋め立てられて道になっている。

リレー連載 ワインと私



30代のころからヨーロッパで暮らしていた。住まいのロンドンのもとより、イタリア、フランス、地中海など、ワインの似合う場所には「土地そのものの魅力」もあふれていた。日本への帰国前に訪れた、レマン湖のほとりにあるレストラン。生産量が限られているのであまり輸出をしないというスイスワイン「シャスラ」を飲みながら、「瀬戸内もレマン湖に負けない風景だ。島にも気持ちよくワインが飲める場所があればいいの」と思った。大三島に戻ってすぐの2014年、実家の近所のカフェでなんとワインパーティがあった。在島の個性豊かな若者が集まって、瀬戸内の魚をフィッシュ&チップス風に料理し、よく冷えた甲州の白ワインを出してくれた。心地よい潮風の吹く庭先にはみかん畑、その先には対岸の島の灯りを抱く夜の海。レマン湖で感じた願望が実現してる！心の中で静かな感動が広がった。

大三島 おでかけInfo.

— 秋冬編 —

大山祇神社抜穂祭

10/28(土)(旧暦9月9日)
目に見えない稲の精霊と
角力(すもう)をとる「一人角力」も奉納。
【場所・問】大山祇神社 0897-82-0032

上浦・大三島合同文化まつり

11/3(金・祝)
アート作品や和太鼓演奏などが集結する島の大文化祭!
【場所】上浦歴史民俗資料館
【問】今治市役所上浦地域教育課 0897-87-3000

瀬戸内しまなみ・ゆめしま海道サイクリング大会 2017

11/26(日)
絶景の中でサイクリングを。
申込期間は、9/1(金)～10/31(火)。
【問】一般社団法人しまなみジャパン イベント事業部
0848-22-4073

しょうと 大山祇神社生土祭

2018年 1/7(日)
投げられた福木(ふくぎ)をつかんで走る
福木神事は、エキサイティング!
【場所・問】大山祇神社 0897-82-0032

しまなみ縦走 2018

2018年3月下旬予定
しまなみ海道11カ所のポイントをめぐるスタンプラリー
【場所】瀬戸内しまなみ海道沿線
【問】本州四国連絡高速道路(株)しまなみ尾道管理センター
0848-44-3700

※情報は予告なく変更される場合があります。
開催時間や詳細は直接お問い合わせください



森本りゆう

「大三島みんなのワイナリー」共同代表
大三島出身で猫とリゾートとワインが好き

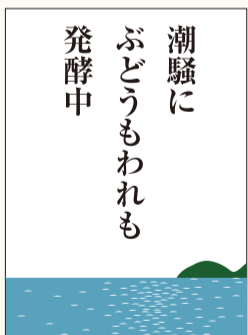


上がレマン湖、下が大三島。

ソムリエ厳選の賞品があたる ワイン川柳

第2回大賞決定!

潮騒に
ぶどうもわれも
発酵中



大賞
黒木 緑さん
(滋賀県草津市在住)

【応募要項】
募集期間 2017年10月15日(日)から12月31日(日)
応募方法 住所・氏名・電話番号・川柳を明記の上、ハガキ、FAXまたはメールでお送りください。宛先ハガキ:〒794-1300 愛媛県今治市大三島町宮浦5562 大三島みんなの家「ワイン川柳」係 FAX: 0897-74-1318 メール: info2015@ohmishimawine.com

今回のテーマは「とほほ…なワイン」
読者さん向けプレゼント企画、ワイン川柳。前回のテーマ「至福のワイン」で見事大賞に輝いたのは、故郷が大三島のご近所だという黒木緑さんです。海沿いに暮らされていた情景が浮かび、なんだか楽しみな気分になる一句をありがとございました。
今回のテーマは「とほほ…なワイン」。恰好つけて失敗した、おいしくて飲みすぎたなど、失敗談も楽しい川柳にして笑い飛ばしましょー! 大賞の方には、川田ソムリエ厳選のワインかジュース(2000円相当)を、お好みでどちらか1本プレゼントいたします。あなたの一句、お待ちしております!

楽しもう! 苗木オーナー生活

「大三島みんなのワイナリー」の苗木オーナーさんには、ワインがもらえるなどの基本特典以外にもたくさんの楽しみ方があります。ぜひお気軽にご利用ください。たとえば……

- 1 葡萄の新植祭(3月)や収穫祭(9月) ワイン造りの一端に関われます。美しい海を眺めながらの作業やランチは、とっても爽快です。同じ趣味や志をもった仲間、島の方とのアットホームな交流も醍醐味のひとつ。
- 2 毎月1日発行のメールマガジン 葡萄の栽培やワイン醸造の「現場」をくわしく知ることができます。これであなたもワイン通!?
- 3 「ワイン川柳」の「おいしい」賞品 左に掲載の「ワイン川柳」に応募すると、川田ソムリエ厳選のおいしいワイン or 葡萄ジュース(2000円相当)がもらえます。



横山久子さん
いつも果物を送ってくれる山梨県の友人に「大三島の苗木のオーナー」というタイトルをプレゼントしようと思立ちました。大三島で「わたしたちの葡萄園」を歩きながら語り合う素敵な日も楽しみです。

お問い合わせ 電話: 0897-72-9377 (担当: 川田)
メール: info2015@ohmishimawine.com

【編集後記】 イノシシ被害や台風、病気や害虫等様々な困難を乗り越え、いよいよ大三島ワインも完成間近です。一本一本が大切に育てた我が子の様。是非とも皆さまに楽しんで頂ければと嬉しいです♪(担当: 川田)